

3年 進路通信 1.01倍

宇部市立厚東川中学校 第3学年 第5号 令和6年5月8日



お子様は、ゴールデンウィークをどのように過ごされましたでしょうか？時を戻すことはできませんが、連休中の生活を上手に振り返って一歩ずつ前進してほしいものです。

さて、学年懇談会でも進路について話をさせていただきましたが、この時期に最も大切なことは、多くの情報をお伝えすることだと考えています。そこで、今回は入試における「選抜の資料」について説明します。

3年間の生活態度・学習成績が「選抜の資料」となります

調査書	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 内申書とも呼ばれる。<input type="checkbox"/> 様式は、公立高校、高専、私立高校で異なり、私立高校は学校によっても異なる。<input type="checkbox"/> 記載される主な内容は、以下の通り。<ul style="list-style-type: none">➢ 「学習の記録（3年間）」＝1・2年「学年末」の通知表及び3年「2学期」の観点別評価・評定➢ 「行動の記録」➢ 「特別活動の記録」➢ 「出停・忌引・欠席・遅刻・早退」➢ 「その他（表彰の記録・段位・資格・ボランティア等）」
学力検査	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 試験当日のテストのこと。<input type="checkbox"/> 問題は公立高校、高専、私立高校で異なる。<ul style="list-style-type: none">➢ 山口県の公立高校 5教科 [50点×5教科=250点] (山口高校理数科は、数学・理科1.5倍で傾斜配点を実施)➢ 国立高等専門学校 5教科 [100点×5教科=500点]➢ 私立高校 学校や学科によって、教科や試験時間が様々
面接	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 推薦入試では、ほぼ全ての学校で行われる。<input type="checkbox"/> 一般入試では、私立高校、公立高校の専門学科で行われることが多い。
小論文	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 私立高校、高専、一部の公立高校の推薦入試等で行われる。
実技検査	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 私立高校、一部の公立高校の推薦入試で行われる。西京高校 普通科（体育コース）などで行われている。

※昨年度までの情報です。今年度、変更になる場合もあります。

配布資料の確認

学校名	配布資料	備考
宇部工業高等専門学校	学校説明会	5月2日（木）に配付しております。
国際高等専門学校	入学案内、説明会、オープンキャンパス等の案内	5月2日（木）に配付しております。

進路情報

進路に関する資料の案内とオープンスクール等の申込・参加方法について連絡します。

資料名(学校名)	内容	備考	申込締切日
進路通信		・生徒が自由に閲覧できるようにしています。	
高校生活への道しるべ		・進路通信第3号をご覧ください。	5月10日(金)
宇部工業高等専門学校	学校説明会	・5月2日に配付しております。 ・希望される場合は、各自で申込・参加をしてください。	宇部会場 5月31日(金) 新山口会場 6月21日(金)
早鞆高等学校	ビューティーコース 説明会(Zoom)	希望者はチラシを持ち帰り、各自でエントリーしてください。教室掲示もしています。	

「受験のしくみ」について

これから、習熟度テスト、期末テスト、教科によっては単元テスト(小テスト)が続きます。習熟度テストの点数は、進路選択の材料になります。また、期末テストと単元テスト(小テスト)は、「調査書」の評定・観点別評価(学習の記録)につながります。

そこで、今回は、合格・不合格はどのように決定されるのか。「選抜の方法」「その他」について簡単に説明します。

【選抜の方法】

選抜にあたっては、調査書が重視されます。その際、調査書の(学習の記録)と学力検査(テスト)の成績は同等に取り扱われ、調査書の(学習の記録)以外の記載事項及び面接、小論文、実技検査等も十分考慮されます。

【その他】

「調査書」「学力検査(テスト)」以外に、受験当日の身なりや態度も大切です。面接が実施される学校もあり、頭髪や服装、身だしなみ、テスト中の態度から休憩時間の様子まで、要するに1日中の全てが試験なのです。生活習慣は、にわかに身に付くものではありません。日頃から生活態度を大切にしたいものです。

集中力を持続させるために

東京大学の研究で面白い研究がありました。1時間を通して学習する「60分学習グループ」と休憩を挟んで、45分を3回に分けて学習する「15分×3学習グループ」を比較した実験です。すると、後者の方が1週間後のテストの上昇スコアが17.2%も高くなったことが分かりました。学習時間が短いにもかかわらず、休憩を挟んだ方が遥かに成果が上がるというものです。

そこで、集中を持続させる学習の時間管理法として、『ポモドーロテクニック』という方法を紹介します。タイマーを準備し、25分に設定します。タイマーが鳴るまで1つの教科に集中して取り組みます。そして、タイマーが鳴ったら作業途中でも中断し、5分間の小休憩を取ります。この25分の学習と5分の休憩を4回繰り返したら、15分~30分の長休憩を取ります。これで2時間が経過するので、このときに長めの休憩をとってリフレッシュしましょう。この方法で重要なのが、タイマーが鳴ったら学習も休憩も必ず中断して切り替えをすることです。もどかしいかもしれませんが、タイマーが鳴ったら作業を必ず中断してください。これは、作業を途中で中断した方が、キリの良いところで中断するよりも強い印象として残すことができる『ツァイガルニク効果』という人間の心理を利用できます。学習の時間は確保しているけど、頭に残らない、集中が続かない、という人は試してみてください。

※勉強の計画は、予定学習時間で終わらない量を準備してください。早く終わって何をするか考える時間ができると、休憩時間が長くなって、学習を再開しづらくなってしまいます。